

会報第31号発刊に寄せて

会長 N.M.



今回もこのようにして、会報をお届けできることになり、作成に携わった皆様方に感謝しております。会員の皆様方からは、山行ごとに班長・会計係・紀行文作成者のご協力を頂きました。山行リーダーにおいては、下見から始まる手順を踏んでの山行実施と後始末に至るまで尽力していただきました。更には、このような形で記録をまとめた幹事さんが居ます。三者の連携により出来上がった集大成の一冊です。是非、熱読いただければ幸いです。

自分の参加した山行記録を読みますと、記憶が蘇ってくると同時に、当日は気付かなかった事も文字となっていることに、新鮮さを感じることもあります。人によって感じ方が違うことは面白いことです。写真も沢山載っています。人間は一年経てば間違いなく一歳、歳をとります。自分の写真の容姿を、意識して集合写真を撮って貰いましょう。「自分が映える」と思われる人の隣りで、写真を撮って貰うことが肝要です。本クラブ会員の平均年齢が72歳となりました。私も含めて会員の皆さんも、気持ちは未だに50代・60代でしょう。しかしながら、現実には甘くありません。一歩で上がれる筈の階段も、足が上がりず2歩となり、一歩で降りられる筈の階段が、ストックを頼りに体を傾けて2歩で降りることとなります。それでも、山に登れるうちは、登った方が良いのです。特に、本クラブの山行は、顔見知りの人も多く居て、お喋りも沢山できます。仮に、動けなくなってもリーダー・サブリーダーがいますので、フォローしてくれることでしょう。多分、まさに安心・安全なハイキングと言えるのではないのでしょうか。但し、普段からのトレーニングの継続をお願いします。健康な「老い」を自らが創ることによって、若い介護士さんの居る、綺麗な老人ホームが貴方を待っています。

今年の夏に、2度目の燕岳に登ってきました。当日は、視界不良でしたが翌日は晴れて、北アルプスの山なみが絵の如く望まれ、高山植物の貴人リンドウ、麗人コマクサ他の高山植物も目に焼き付けることができました。7月下旬とあって山小屋は、ほぼ満員状態でした。宿泊客の多くは、ご来光を拝もうと夜明け前からスマホ・カメラを携えて、小屋の前で待ち構えていました。感動頻りの北アルプスでした。ここで一句「美男美女ばかりに見える山の小屋」。

話しは変わりますが、本クラブは1996年3月の創立からもうすぐ30年を迎えようとしています。このことは諸先輩方の大変な努力の賜物であることを、私たちは、強く認識する必要があります。残念ながら、会員も幹事も減少の一途を辿っています。このことは本クラブに限らないことです。要因は、定年延長を前提の再雇用制の導入やインターネット等の普及による山行仲間の見つけ易さ等いくつか考えられていますが、それでは本クラブが消滅して困らないかということ、そうではないのです。本クラブが消滅すると、外出の機会が格段に減ることになります。病院への通院とスーパーへの買い物だけということになり、積極的な健康づくりの機会が失われてしまう人が殆どではないでしょうか。そうならないように幹事一同も頑張りますが、会員の皆さんも今一度、友達を勧誘してみてください。そして、来年も山行記録が発刊できて、皆んなで会員平均年齢73歳を迎えられるようにしましょう。